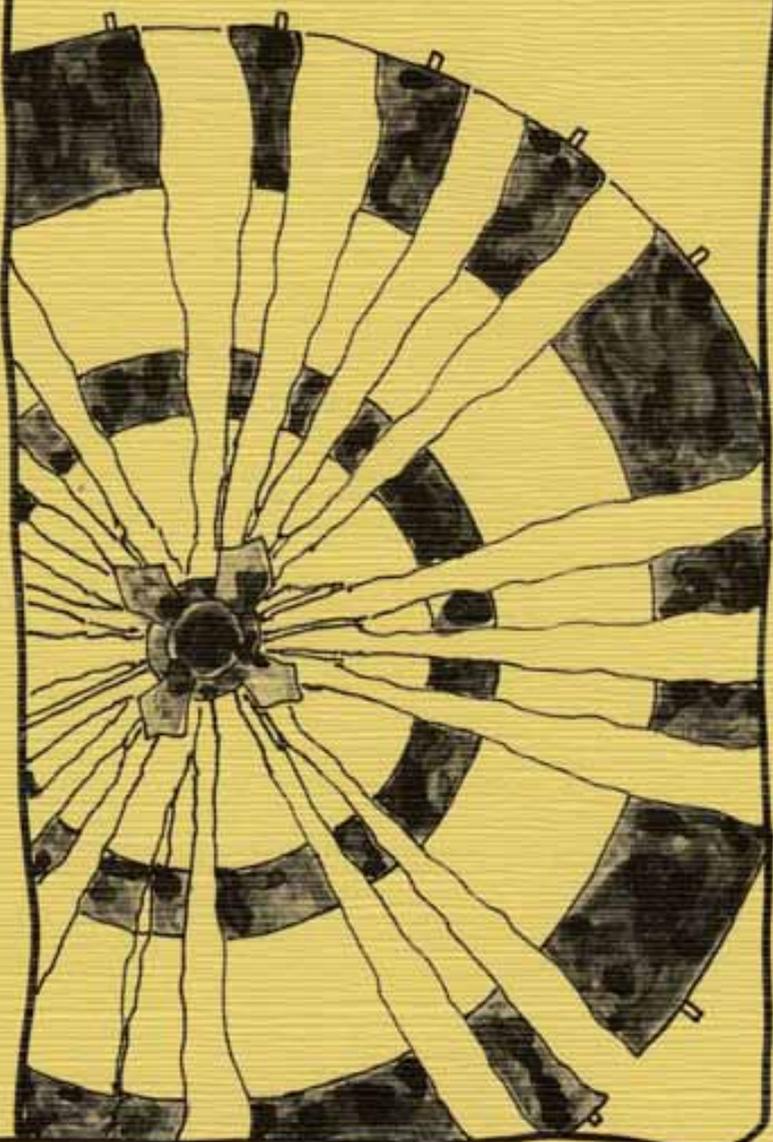


やぶれ傘



一一九号

二〇二二年四月

雨らしき雨が上がつて桃の花 根橋宏次
 ふらここを漕ぎつつ見やる滑り台 きくちきみえ
 蝌蚪生まる水面のゆるる朝のこと 大島英昭
 川風の時に触れゆく芦の角 廣瀬雅男
 連翹は攻撃的に明るくて 丑久保 勲
 菜の花のバスターブルクロス赤 青谷小枝
 野良猫が来て何かいふおぼろ月 藤井美晴
 草餅は売り切れと茶をふるまはれ 瀬島酒望
 あぶくひとつ池の底から浮く日水 白石正躬
 ただいまの声隣家より目借時 小山よる
 畝沿ひに残る足跡春寒し 渡邊孝彦
 揚雲雀ちろちろちろと水の音 安藤久美子
 恋猫の声をぬるめの仕舞湯に 天野美登里
 木の芽風ガラス細工の微動して 有賀昌子
 釣宿の帳場を飾る吊るし雛 秋山信行

抄 集 句 傘 大 崎 紀 夫 選

春の薔薇一輪摘みて床の間に 松村光典
 じじばと孫とそろつてちやんちゃんこ 石原健二
 母のあと子が自転車で追ふ余寒 泉 一九
 「少しサドル下ませうか」とうらけし 岩藤礼子
 能登の夜は甘く煮つけし真鱈の子 奥田温子
 やはらかき草に坐ればたんぽぽ黄 倉澤節子
 乗つて知るバス停上に花ミモザ 黒澤次郎
 長電話してゐて春の日の暮れて 小巻若菜
 春の海重なる屋根の上に見え 手島百合子
 春昼のマネキンの腕はづされて 中島和子
 寒ふるあるかなきかの音のして 貫井照子
 春浅し無事めぐり来し誕生日 橋本美代
 真向ひの人なき席に冬日さし 日高みち子
 燐寸箱どちらにも開きあたたかし 武藤節子
 木の芽風運転席の窓開けて 村田 武

雀 蛤 に

大崎 紀夫

そこいらに風が出てゐる掛大根
春近き蠅虎が椅子にゐる
しばらくは二羽でゐる鳩黄水仙
テーブルを歩いてきたる春の蠅
負鶏の脚ぬぐひゐる脱脂綿

波寄するあたりで雀蛤に
菜の花の化したる蝶が目の前を
畝の間の雉がそつぽを向いてゐる
薄雲のいよいよようすく桃の花
海女がくる磯ふんどしを厚く締め
波ひかる日の防風を摘んでゐる
春の夜の卓に『ゴドーを待ちながら』

桃の花

根橋宏次

呼鈴を押せば灯のつく冬の雨
 飴玉の中に炒り豆あたたか
 春落葉これより坂は石段に
 石に手を置いて亀ある春の昼
 家具のニスにはへる茶房ヒヤ
 雨らしき雨が上がつて桃の花
 永き日のぴんと張りたる舳ひ
 発掘の人の出てゐる初ざくら
 船外機つけて舟くる揚雲雀
 旅先のやうに本屋にゐる遅日

ふらふら

きくちきみえ

厨まで海鼠一匹連れてくる
 ゆつくりと踏み出すペダル春の星
 春昼の天かすカリリうどん食ぶ
 門を入りすぐに玄関春ともし
 桜餅あんこヒンヤリしてゐたる
 板塀の生ぬるき午後花八つ手
 おぼろ夜の光る首輪が寄り来る
 ふらここを漕ぎつつ見やる滑り台
 啓蟄の窓をぴしやりと閉めにけり
 手の届くあたりより散る梅の花

蝌蚪生まる

大島英昭

春ならひ乾ききつたる犬の糞
菜の花と無人売り場とバス停と
消えさうな道の途中に藪つばき
蝌蚪生まる水面のゆるる朝のこと
シーソーにをさなが二人鳥帰る
てふてふの急に反転して速し
盛り上がりひろがり畦の苜蓿
木もれ日の細きひと筋花はこべ
雲間より丁度日がかかる花辛夷
菜園に人が出てゐる花ぐもり

芦の角

廣瀬雅男

片栗の花に風来る古墳かな
川ひとつ越えて風来る露の臺
味噌汁に露味噌少し落としけり
梅咲いて天神様の幟立つ
杖突いて土手行く人や犬ふぐり
初蝶の白きが低く飛び行けり
揚げ雲雀行き止まりなる土手の道
川風の時に触れゆく芦の角
高みより椿散りくる切通
捨てられし畑に菜の花咲きにけり

連翹

丑久保勲

風花へ手を差し伸べる宿の前
物干に水滴ひかる寒椿
ピコピコとバス寄り来たる梅の花
歩きあゝる時に眠気が花辛夷
白梅と櫻の枝と高圧線
パラと来て色変はりたる春の土
リビングのソファアの位置を変えて春
揚雲雀日差しまぶしき石舞台
連翹は攻撃的に明るくて
鎌倉に着いてそのままシラス井

はくもくれん

青谷小枝

土据ゑて仕事始めの蹴り轆轤
一晩の宿の針魚の糸づくり
窓に白山はりはりど独活を食む
涅槃図の隅を見てゐる膝ついて
駅を出るビニール傘に春の雪
みづいろの空さへづりのころと
ふらここの揺れを残して子は母へ
菜の花のパスタテーブルクロス赤
春風の街へコーヒー買ひに出る
はくもくれん石のマリアに雨が降る

糸遊

藤井美晴

新聞を置き浅春の庭へ出る
三月の残れる鳩が浮いてゐる
糸遊と賽の河原をそぞろ行く
うららけし手押しポンプへ誘ひ水
花曇り物干竿に小鳥二羽
花の雲飛行機雲がはすかひに
花冷えの夜の水道の水の音
鉄骨の解体現場花吹雪
おぼろ夜の学校跡を通り過ぐ
野良猫が来て何かいふおぼろ月

草餅

瀬島洒望

鯷鮓屋へ鍋焼きうどん食べたくて
珈琲の豆挽いてゐる春立つ日
見切り品ワゴンに積まれあたたかし
山椿落ちて辺りをその色に
市営墓地たんぽぽの咲く区画売れ
俳号の混じる戒名風光る
酒蔵の事務所の棚に夫婦雛
草餅は売り切れと茶をふるまはれ
馬酔木咲く知事公館へ続く道
恋の猫終ぞ見掛けぬのが来てる

日永

白石正躬

山羊の声やうやく春が来たらしく
春北風川を真つすぐ下りけり
雨雲が行けば風来る黄水仙
尾根に出て梅の匂ひをかぐ日中
畑から肥しの匂ひ春の風
銭入れて寺の鐘打つ鳥曇
あぶくひとつ池の底から浮く日永
川へ行く径のたんぽぽ踏まれゐて
鉢の中ぺんぺん草が賑はつて
もこもこと馬鈴薯の芽が並びけり

目借時

小山よる

軒下に鳩の鳴く青春の月
春雨の降りしきる音だけがして
春二番クリームパンは売り切れで
人形の瞳に春の埃かな
春浅しもみあげだけにある白髪
ただいまの声隣家より目借時
洗剤を継ぎ足してゐる春の夜
春タベソファーにつきし座り癖
花の宴鳩はバタバタ気ぜはしく
パン焼ける匂ひ漂ひくる日永

ミモザ

渡邊孝彦

滑り台に滑るを待つ子春ちかし
棒切れで土を掘る子等春立てり
畝沿ひに残る足跡春寒し
ひゆうひゆうと風来る春田沿ひの道
ナイターのジュニアサッカー柵の芽
三叉路の角の公園冴えかへる
ビルの上にまんまるな月二月尽
朧夜の仏壇に飯供へけり
店先にその日の花と言ふミモザ
石窯のパン屋に近く馬酔木咲く

揚雲雀

安藤久美子

野に出でて春を身近に小半時
折鶴が箸置きとなる加賀の春
ワンピースのふたりのひとり春帽子
窓明かり紫色の風信子
花ミモザカテドラルまでもう少し
登校の子の速足や更紗木瓜
週末は雨になるらし馬酔木咲く
花蘇芳先へ先へと空あをく
卒業生どつとあふれて街騒へ
揚雲雀ちろちろちろと水の音

恋猫

天野美登里

炉話やあとひと口のコップ酒
春寒の田を山かげの移りゆく
山茱萸の花や雨雲切れはじめ
風少し土手に来てゐるいぬふぐり
雛の間の電話のベルが鳴りにけり
黄水仙ポストの横に咲いてをり
飾りたる奈良の一刀彫の雛
春昼のベンチに雀土に鳩
ひとつ目のカーブを曲り花薊
恋猫の声をぬるめの仕舞湯に

木の芽風

有賀昌子

立春のひかり跳ねてる楽器店
如月の夕日が山に溶けてゆく
野水仙見てゐて犬に吠えられる
寒明けの布袋の腹をぽんと打つ
立春のフラワーショップ準備中
木の芽風ガラス細工の微動して
突つつけば音のしやらしやら薄氷
木の芽風膨らみ切れぬ園児の輪
人文字の中に孫ゐて風光る
目隠しを緩めに雛を納めけり

吊るし雛

秋山信行

北おろし円空仏を拝す間の
冬の日の戸をたつ音の聞こえる
岩壁の山寺見上げ根深汁
橋桁に乾びぬるゴミ冬の昼
短日の工事現場に灯の灯り
冬うらら孫の出来たる逆上がり
笹鳴きは観音堂の裏手から
池の端を鯉のゆるりと臥竜梅
釣宿の帳場を飾る吊るし雛
廃材の置かれしところ草青む

春の薔薇

松村光典

これ千両これ万両とやかましく
一本の青首大根買ひにけり
冬空に真一文字の飛行機雲
日脚伸ぶ窓から外を眺めぬて
白々と月の明かりに梅の花
子どもよりおやしき生き生き凧揚がる
公園を早春の風わたりゆく
春の薔薇一輪摘みて床の間に
俯いてクリスマスローズが庭に咲き
夜目白き沈丁の香に包まるる

◇5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	5日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	秋山信行
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
6月	1日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	7日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	皇居・二の丸庭園	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	26日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

6月20日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所 皇居・大手門前。パレスホテルの前。

吟行地は皇居・二の丸庭園。

句会場は江東区・森下文化センター。

◎連絡先

秋山信行	☎ 048-874-0555	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856